

はじめに

挑戦するのらえもん

古高 利男

地球46億年の歴史をふり返れば、あらゆる生命に「生活」があり「日常」があったのだろう。その46億年という時間の積み重ねが、今の地球をつくっているはずだ。未来につなげていくためには、「生活」があり「日常」が続く地球を維持していくことが必須条件である。

「一瞬で30万、一日で10万」という生命の消滅は、地球の生命の営みの時間に当てはめると、想像を絶する時間のスピードである。

私たちは歴史に謙虚に学び、「生活」と「日常」を破壊してはならないのだ。のらえもんは、今年度で24年目を迎えた。

この一年間をふり返ってみると、参加者の皆さんに助けられ、充実した内容の濃い18回の活動を進めることができた。深く感謝するしだいである。

とりわけ、のらえもん初めての発表会“森と環境”～持続可能な未来のこと～を実施できたことは、大きな励みとともに自信にもなった。

この“森と環境”発表会は、これまで7回の「土呂部のめぐみ～メイプル樹液採集体験～」を、持続可能な環境という視点でまとめたものだ。

ホットケーキに利用されているメイプルシロップは、イタヤカエデの樹液、糖度1,5%を煮つめて、60%まで糖度を高めたものだ。それを得るためには、イタヤカエデの森を末永く維持していくことが必要だ。森があって、初めて人はそれを「恵み」としていただける。その自然環境に、しっかりと思いを寄せて欲しいという願いであった。

人々が利用し消費しているあらゆるものの源は、第一次産業といわれている農業・漁業・鉱業・林業が産みだしている。生産者への忘却が、環境破壊の大きな要因の一つととらえ、「生産者である第一次産業」のありがたさを「伝える」試みでもあった。

パワーポイントを使い、読み聞かせ・体験発表そしてワークショップを取り入れたプログラムである。のらえもんの「思い」「熱意」ですすんだ発表会は、「挑戦するのらえもん」の意気込みを示したのだった。

田んぼ体験活動でも、田んぼという自然環境の働きに注目してみようと意図的にすすめてきた。とかく主食の米に注目が集まり、「反当たり、どのくらい生産できたか」が話題の中心である。そして、「美味しいか」「安いか」と続き、田んぼが持つ自然環境の働きへの関心は高くはない。

足立区の「げんき応援事業」の支援を受けることが決まり、それまでの主食の米が出来上がる全体像をつかむ体験活動と同時に、田んぼという自然環境が果たしている自然との関わりについても意識していくことを目的とした。

田んぼが果たす自然環境との関わりでは、まず、治水や洪水防止などの国土安全に注目する必要がある。用水路の維持管理は、川の洪水防止であり水の安定的な供給である。そのためには、木を植え森づくりを進めることが必要である。田んぼは水を貯めながら作物を栽培することから、地下水の供給につながり、また、魚・虫・野鳥などの生き物の生息地の役割も見逃すことはできない。さらに、田植えをした後の美しい光景は、人々に心の安らぎを与えている。すがすがしい空気を漂わせたり、気温の変化を和らげたりしていることも実感していることである。

各地に残る伝統文化や祭事行事などにも、田んぼで生産活動に励んできた農家の方々の「思い」や「願い」が込められているのである。

このような、米の生産以外にも、米作りがおこなわれていることによって伝統行事や自然環境が守られながらたくさんの生き物たちを育てているという面にも、しっかりと興味関心と理解を深めていこうとする取り組みが、今年度の田んぼ体験活動であった。

令和の米騒動が、米の価格だけに注目が集まるのではなく、これをきっかけに、縄文時代後期から米作りが延々と続いてきて今の日本があることを総合的にとらえ、国民の価値観としていかなければならないだろう。

三つ目の挑戦は、「多様な自然体験を通して、明るく元気な活力ある子どもたちを育てる」という願いを込めて、やはり足立区の「子どもの未来応援活動」から支援を受けた活動である。

のらえもんの活動は、すべてが「子ども中心」である。子どもの目線に立ち、子どもたちのつぶやきを拾い、できるだけ満足感を体感できるように活動を進めてきた。そのため、大人は聞いたり質問したりして「みんなで学び教え合う」ように気をつけてきた。

11月の草木染めでは、初めて藍染めに挑戦した。一つのテーブルにいくつもの親子が集まり、教え教えられながらハンカチに模様をつけていく。ハンカチを折りたたみ輪ゴムで縛るので、どんな模様になっているかわからない。藍染めの液に浸し、臭いにおいをはまんしながら、よく染まるようにハンカチを揉んでいく。そうして出来上がると、緑色がどんどん青色に変化していくのだった。「なに、これ?」「へんだネー?」「変わるんだ!」「どうして?」と、子どもたちの声が聞こえてくる。いい場面である。

藍色に染まったハンカチを大事そうに持ち帰る。「毎日、学校に持って行ってるよ!」と、後日、お父さんから聞いた。嬉しい瞬間である。

のらえもんの会員の協力とともに、足立区の支援を受けて、2024年度の活動を18回も続けられたことに深く感謝申し上げたい。そんなことが出来たのは、「生活」と「日常」が持続していたからに他ならない。